

最優秀賞

一瞬の重み

庄内中学校3年 御木 桜子

「私は大丈夫だろう。」ずっとそう思っていた。しかし、事故というものは、前触れもなく、私たちに襲い掛かってくるものなのだ。

私が中学一年生のときだった。その日の朝は急いでいて、いつもに増して焦って自転車をこいでいた。姉と二人でいつもと同じ道を走っていたときだった。「ドンッ。」という音と共に、姉の乗った自転車は、一台の車にぶつかられた。不幸中の幸いなのか、姉は転ぶことなく、大きな怪我もなかった。あの時、歩道を走っていた私たちだったが、姉が横に転んで、そのとき車が車道を通っていたら、おそらく姉の命は助かっていなかっただろう。そう考えると、今でも背中がぞっとする。そして、あの事故以来、私はあのとき通った道は通れなくなった。「私は大丈夫だろう。」そういう風に考えていたら、いつかもっとひどい目にあうだろうと思い、今まで以上に、自転車の運転には、慎重になっている。

自転車関連事故の件数は、福岡県で一年間に約四千件発生している。つまり、一日に十一件の事故が起こっているのだ。最近では、スマホを使いながら運転し、その結果、事故を起こしてしまうケースが増えてきていることも事実だ。たった一瞬の気の緩みが、大切な命を奪うのだ。事故の被害者は、何も悪いことをしていないのに命を失ってしまう。当たり前で過ごしていた、毎日の時間が奪われることが、被害者や被害者の家族にとってどんなに悔しいことだろうか。事故を起こした加害者も、たった一瞬の油断や欲望のせいで、明るい未来の明るい色が、暗く、黒く染まってしまう。だから、もうやめよう。車は、便利な道具だが、一歩間違えると、人の命を奪う凶器にもなりうる。自分が運転することに、責任を感じられない人が車を運転してはならない。だからこそ、ルールというものを守る必要があるのだ。

バラ色の未来を、黒で塗りつぶさず、もっと明るい色に塗りかえよう。